

# RACE News

東京大学人工物工学研究センター  
Research into Artifacts, Center for Engineering

**No.16**

## Contents

### 1. センター長挨拶

### 2. 着任の辞

准教授 堀江 英明  
(ライフサイクル工学研究部門)

准教授 竹中 毅  
(価値創成イニシアティブ(住友商事)寄付研究部門)

### 3. 離任の辞

准教授 藤井 信忠  
(価値創成イニシアティブ(住友商事)寄付研究部門)

### 4. イベント開催報告

国際会議「デザインの科学」

東大・産総研包括連携・協力シンポジウム  
「持続可能な情報化未来都市・柏の葉の構想」

価値創成シンポジウム「人工物・価値・サービス」

第4回人工物工学研究センター研究発表会

### 5. ご案内

第16回人工物工学コロキウム「社会における価値共創」

### 6. 平成19年度学内連携研究の紹介

### 7. 住友商事(株)稷門賞受賞の報告



## 1. センター長挨拶



東京大学人工物工学研究センター  
センター長

上田 完次 教授

人工物工学研究センターが、第2期を開始したのは2002年4月です。現在、そのほぼ折り返し点を迎えており、この機会に自己点検をもとにした外部評価を実施することになりました。センター自らの判断のもとに、研究・教育実績や組織・運営等の状況についての客観的な評価・助言を外部に求め、今後の研究教育活動や将来構想に反映を図りたいと考えています。

これまで、第1期に抽出された循環型社会の構築、新産業創造、個のケアなどの重点課題、および、各研究部門の個別課題に関する研究を実施してきました。さらに、「価値の創出」という視点が重要であるという認識のもとに、社会的な価値の創成に重点を置いた研究活動を推進するために、価値創成イニシアティブ(住友商事)寄附研究部門を設立(2005年12月)するに至りました。また、脱領域・脱物質という2つの概念を基礎とした新しい研究活動は、工学系研究科での新専攻設置(システム創成学専攻2008年4月予定)の先駆けになったといえます。また、第1期から一貫して、「既存の理解(アナリシス)」に対する「新規の創出(シンセシス)」の科学の重要性を論じてきましたが、このことは、日本学術会議の提言「知の統合—社会のための科学に向けて」(2007)における「認識の科学」に対する「設計の科学」の重要性の喚起につながりました。

今回、自己点検する中で再確認したことは、センターが時代に先駆けた新しい概念を常に提示し、学術、産業、社会に対して、少なからぬ影響を及ぼしてきたことです。例えば、“サービス工学”、“共創”、“デジタル価値”、“価値創成”、“逆工場”、“人工物ネットワーク”、“創発的シンセシス”、“構成的方法論”など多くのキーワードは、センターまたはセンター関連の研究者から開始されたもので、最近ではそれらを冠にした国際会議や共同プロジェクトが推進されるようになってきています。新しい概念や方法論の提示は、今後もセンターの重要な役割といえます。

これらを踏まえて、センターの第2期後半から第3期に向けた将来構想として次のようなことを目指したいと考えます。

- 1) 価値創成イニシアティブ(住友商事)寄附研究部門の継続・拡充
- 2) 他大学や産業総合技術研究所、海外研究機関などとの密接な連携の構築
- 3) 製造業だけでなくサービス業を対象とした共同研究や連携研究の推進
- 4) 人工物(工)学またはシンセシス学の確立のためのジャーナル誌発行あるいは学会創設
- 5) ポスドク研究者を対象にして社会的価値を導くリーダーを養成するシニアスクールの創設
- 6) 国際人工物(工)学研究センターを設立し、「人工物価値研究部門」、「国際制度デザイン研究部門」などの新設

現在、以上の自己点検に対して、外部評価委員会による評価が行われており、4月中には報告書を作成する予定です。

## 2. 着任の辞



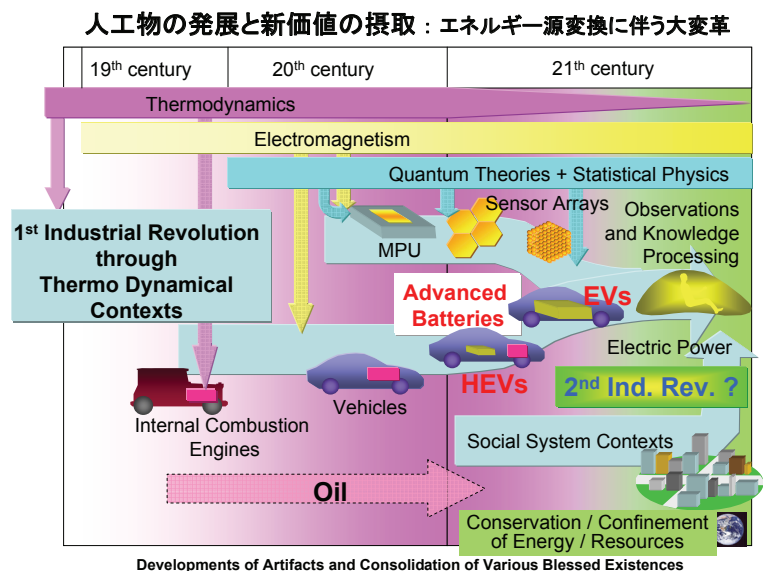
東京大学人工物工学研究センター  
ライフサイクル工学研究部門

堀江 英明 准教授

二十一世紀は、限られたエネルギーをいかに有効に活用してゆくのか、人類はどのような具体的方策でこの問題に対処するのか、将に正面から問われる時代だと考えています。かつてOECD諸国約8億人でほぼ独占的に消費してきたエネルギーを、今後数十年で、その十倍近い地球上の人々に、どのようにすれば平等に利用可能となさせしめ得るのか、しかし急激な気象変化・温暖化に象徴されるように、大きな制限がそこには課せられています。内燃機関実現で産業革命は一挙に花開きましたが、単純に言えば、『熱力学(効率10-30%)機関から電磁気・量子(効率90%以上)デバイスへの重心移行』により、飛躍的に高いエネルギー変換効率デバイスへの転換により、総消費エネルギー量は抑制しつつ、エネルギー利用を広く人々に活用できるようにすることが必須で、これは二十一世紀に住む我々の使命なのではないでしょうか。

ところで、人類は今後、情報もパワーも暫時主として電子を介して遣り取りを行うことになりますが、その一つの潜在的な技術的課題(チャレンジ)は、その電気的エネルギーを有効に蓄積可能とする容(かたち)(電池)をどのように創り出せるか、そしてその実現後には、無数に埋蔵される電池を基(ピボット)にいかに相互に緊密に、言わばあらゆる仮想的な階層において、電気エネルギーネットワークを描き強力に構想し得るかでは無いかと私は考えています。つまり、人間と共存し永続し得る「善なる存在の人工物」構築の観点から、21世紀(以降)のスタンダードとなり得る、新しいエネルギーシステムー電池分散化を基とした統合型最適電力エネルギー化社会システムーの概念創出と、その必要な技術基盤作りを推進して参りたいと考えています。更には、将来的に「エネルギーデバイス」の新たな概念を構想し、まったく新しい工学分野を創り出せるならと考えています。そしてスタンフォードやMITに勝るとも劣らない活気溢れるエネルギーデバイス研究の世界の中心の一つにできるなら、望外の幸せです。

ぜひ来るべき、何より眩く輝かしくあるはずの社会構築に向け、それは同時に新たな工学自身の変容とその高み・在り様を創り出し、指し示すことでもあると考えていますが、研究を推進してゆきたいと心から願い念じています。





## 着任の辞



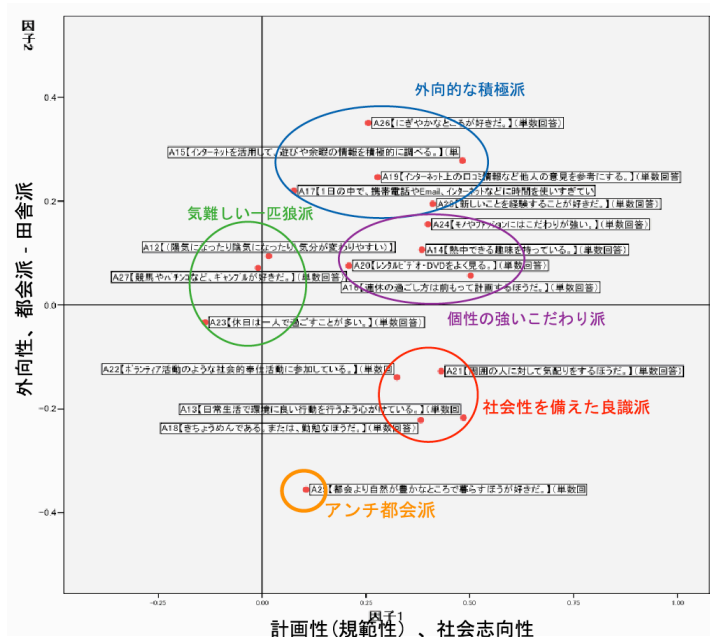
東京大学人工物工学研究センター  
価値創成イニシアティブ(住友商事)  
寄付研究部門

竹中 毅 客員准教授

平成19年12月1日付けで、価値創成イニシアティブ(住友商事)寄付研究部門の客員准教授に着任いたしました(同寄付研究部門内での昇任にあたります)。早いもので人工物工学研究センターに着任してから5年半の月日が経ち、実験心理学という異分野の出身ながら、センターの中ではもはや古株の一人になってしまいました。そのため、最近では心理学が専門というよりも、むしろ人工物(工)学という領域横断的な研究自体が自分の専門であると強く感じています。実際、私が現在行っている研究テーマのほとんどはセンターの先生方や学生の皆さんとの共同研究を通して生まれたものであり、従来の心理学や工学にはそれらに相当するカテゴリーが見つかりません。

私の基本的な研究姿勢は、人間活動を単に情報処理的に捉えるだけではなく、異なる要素(異種感覚情報や複数の認知的側面)の相互作用を通じた創発現象として捉えることです。例えば、人間のライフスタイルや価値観の背景には、いくつもの異なる認知的側面や性格、日常行動があり、それらは相互に影響を与えあっていると考えられます。人工物工学が目指す「個人の豊かな生活と環境や社会の持続性の両立」を達成するためには、人間のライフスタイルや価値のメカニズムを明らかにし、それらを考慮した新しい人工物やサービスを設計することが求められています。現在、我々は実際にライフスタイルに関する大規模なアンケート調査を行うとともに、新しいサービスの社会的受容や普及を予測するためのエージェントモデルの構築を行っています。価値創成イニシアティブでは、人工物やサービスが社会において価値を生み出すメカニズムを解明することを目指し、これからも学問領域に囚われない新たなアプローチを追及していきたいと考えています。

最後になりましたが、今後とも皆様のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



ライフスタイル調査の分析例





### 3. 離任の辞



東京大学人工物工学研究センター  
価値創成イニシアティブ(住友商事)  
寄付研究部門

藤井 信忠 客員准教授

平成19年10月1日付で、神戸大学大学院工学研究科情報知能学専攻に異動いたしました。人工物工学研究センターには、平成14年5月に共創工学研究部門に助手として着任し、平成17年12月からは価値創成イニシアティブ(住友商事)寄付研究部門の客員助教授(平成19年4月より客員准教授)として、約5年半に渡り大変お世話になりました。有り難うございました。いつの間にか、教員・スタッフの中で最も古株となってしまっていたことに驚きます。

助手として着任した当時の人工物工学研究センターは、駒場IIキャンパスの「蔦の絡まる」16号館にあり、それこそ着任初日はその歴史ある佇まいに愕然と致しました。しかし、いかにも大学らしいその伝統ある建屋と、工学系4専攻の異なる研究室の学生が研究室を一にすることによって生まれるオープンな気風が、人工物工学研究センターの独特な雰囲気を作り、大変居心地が良いと感じるまでにそう時間はかかりませんでした。現在でも当時の先生方、研究員や学生の皆さんとも親交を持ち続けさせて頂いていることは、私にとっての財産となっております。その後、駒場IIキャンパスの45号館、そして現在の駒場キャンパスへと、2度のセンター引越しを経験しましたが、場所や建屋が変化しても人工物工学研究センターの良さは失われていないと感じております。

人工物工学研究センターに参加させて頂いてから現在に至るまで、人工システムの創発的構成法に関して、特に生産システムを主たる対象として研究を行ってきました。現代の生産環境の複雑化に起因して惹起する生産システムにおけるコンフリクト・ジレンマ的状况を解決するために、生産システムを自律分散システムとして捉え、スケジューリング手法、設備配置計画手法、新しい生産形態などの提案と検証を行うとともに、産学連携研究を進めて実世界展開の可能性を検討してきました。また近年は、人工システムを人を含んだより広義なシステムとして捉えることが重要となるため、人の購買行動や視聴行動、社会ネットワークなどの社会システム、さらにはサービス工学などに関しても研究を進めてきているところでした。

これらの研究に取り組むことになった要因の一つは、人工物工学研究センターの持つ多様性であろうと考えております。種々の背景、専門領域を持つ研究者が集まり、領域横断的に研究に取り組むことにより、人工物学の深化と展開を目指してきていたからこそ取り組み得た研究テーマだと感じております。人工物工学研究センターにおいて学んだこれらの問題意識と培ってきた手法をより発展させ、今後も新しいシステム計画学の構築に取り組んでいく所存です。

最後になりましたがこの場をお借りして、上田センター長を始め、先生方、スタッフ、学生の皆様には大変お世話になりました。御礼申し上げます。これからも、神戸の地より人工物工学研究センターの活動を微力ながら応援させて頂きたいと思っております。今後とも、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。また、関西にお越しの際は、是非気軽にお立ち寄り下さい。人工物工学研究センターの今後益々のご発展をお祈り申し上げます。



## 4. イベント開催報告

### 林原フォーラム「デザインの科学—創ることと分かることの本質を探る—」

2007年9月26日～29日の日程で「デザインの科学」をテーマとしたワークショップと公開コロキウムが開催されました。本国際会議は、「持続性とデザイン」「芸術と認知」「経営と価値」に関する議論を深めるとともに、「創出」と「理解」という人間の本質行為の学としての、「デザインの科学」を論究し、持続可能社会構築と新たな社会的価値創出へ向けたメッセージの発信を目的とするものです。29日に行われた公開コロキウムには約220名が参加し、元東京大学総長の吉川弘之氏やミュンヘン大学医学心理学研究所のアーネスト・ペップル所長、ソニー前会長の出井伸之氏らの講演とともに、討論では会場からも活発な意見が寄せられました。また、公開コロキウムに先立ち、26日～28日までの3日間京都で行われたワークショップでは、20名を越える研究者とデザイナーが、それぞれの専門から「持続性とデザイン」「芸術と認知」「経営と価値」に関する講演を行うとともに、参加者全員での活発な議論を集約したメッセージが公開コロキウムにおいて報告されました。

#### ▶ 概要

##### ワークショップ(於京都)

日程：2007年9月26日(水)～28日(金)、会場：ホテル嵐亭

##### 公開コロキウム(於東京)－東京大学130周年記念事業

日程：2007年9月29日(土)、会場：東京大学鉄門記念講堂

#### ▶ 公開コロキウム プログラム

##### 13:00 – 13:15 はじめに

挨拶 小宮山宏(東大・総長)

開催趣旨説明 上田完次(東大・人工物工学研究センター長)

##### 13:15 – 14:15 講演1：持続性とデザイン

「一般設計学と持続性」 吉川弘之(産総研・理事長、東大元総長)

「環境とデザイン」 J. Lubchenco(国際科学会議前会長)

上記2講演へのコメント 岩田修一(東大・新領域創成科学研究科・教授)

##### 14:15 – 15:15 講演2：芸術と認知

「脳と創出性」 E. Pöppel(ミュンヘン大・医学心理学研究所長)

「証明とデザイン」 石井幹子(照明デザイナー)

上記2講演へのコメント 三宅美博(東工大・総合理工学研究科・准教授)

##### 15:15 – 16:15 講演3：経営と価値

「価値の共創」 V. Ramaswamy(ミシガン大ビジネススクール・教授)

「組織とイノベーション」 出井伸之(ソニー前会長)

上記2講演へのコメント 馬場靖憲(東大・工学系研究科・教授)

##### 16:15 – 16:35 休憩

##### 16:35 – 18:25 パネル討論

ワークショップ報告 上田完次(東大・人工物工学研究センター長)

パネリストによる総合討論

##### 18:25 – 18:30 おわりに

閉会とまとめ 上田完次(東大・人工物工学研究センター長)



公開コロキウムの様子

## 東京大学・産総研包括連携・協力シンポジウム「柏・国際学術都市を考える ー持続可能な情報化未来都市・柏の葉の構想ー」

2004年に東京大学と産業技術総合研究所が包括連携・協力協定を交わして以来、様々な分野での連携が促進されてきました。2007年10月26日に開催された本シンポジウムでは、現在開発が進められている柏の葉キャンパス駅周辺を対象に、持続可能な都市の在り方と、それを実現するための将来技術および東大柏キャンパスと産総研の連携について議論がなされました。小宮山宏東大総長と吉川弘之産総研理事長の対談ビデオ放映とともに、4つの異なる視点から見た都市の持続可能性について講演が行われ、当日は柏キャンパス一般公開日であったことも相まり盛況のうちに閉会しました。



当日の様子

### ▶ 概要

日程：2007年10月26日(金)、会場：東京大学柏キャンパス総合研究棟

### ▶ プログラム

#### 12:50 - 14:00 はじめに

挨拶「東大・産総研の包括協定の推進について」 岡村定矩(東大理事)、一村信吾(産総研理事)  
挨拶「東大柏キャンパスにおける産総研との連携構想」 大矢禎一(東大・新領域・副研究科長)  
対談ビデオ「東大柏キャンパスと産総研との連携への期待」 小宮山宏(東大総長)、吉川弘之(産総研理事長)  
「柏の葉の開発とUDCKの活動」 北澤猛(東大・新領域・教授、UDCKセンター長)  
「都市構築へのサービス工学の視点」 富山哲男(東大・生研・客員教授、デルフト工科大学・教授)

#### 14:00 - 14:40 持続可能性への視点1：環境負荷の削減

「総合交通サービス」 大和裕幸(東大・新領域・副研究科長)  
「エネルギー需給システム」 大和田野芳郎(産総研・エネルギー技術研究部門長)

#### 14:40 - 15:20 持続可能性への視点2：健康の増進

「健康増進のための技術とシステム」 安部孝(東大・新領域・客員教授)  
「高齢者特性に適合した支援技術」 赤松幹之(産総研・人間福祉医工学研究部門長)

#### 15:20 - 15:30 休憩

#### 15:30 - 16:10 持続可能性への視点3：情報技術の活用

「人間行動センサーによるサービスの創出」 保坂寛(東大・新領域・教授)  
「都市での人間行動センサーの利用」 橋田浩一(産総研・情報技術研究部門長)

#### 16:10 - 16:50 持続可能性への視点4：ライフスタイルと楽しさ

「コミュニケーション指向の空間情報サービス」 柴崎亮介(東大・空間情報センター長)  
「都市におけるサービス産業の設計」 内藤耕(産総研)

#### 16:50 - 17:20 総合討論

司会 稲葉敦(東大・人工物工学研究センター)  
発表 評価方法検討グループ  
コメンテーター 奈須野太(経産省・産業技術環境局技術振興課長)

#### 17:20 - 17:30 おわりに

総括と挨拶 上田完次(東大・人工物工学研究センター長)



## 価値創成シンポジウム「人工物・価値・サービス」

デジタル・ネットワーク時代の現在、人工物の生産・利用からサービスの生産・利用に移りつつあります。2007年11月30日に価値創成イニシアティブ(住友商事)寄付研究部門の主催により開催された本シンポジウムでは、人工物とサービスの価値について多様な視点から接近することを目的に、人工物やサービスの価値はどのようなものであり、どうしたら価値を創れるか、について講演が行われました。(武田寄付研究部門教授によるシンポジウム総括、および各講演資料を公開しています。詳しくは寄付研究部門サイト <http://www.race.u-tokyo.ac.jp/vaci/index-j.html> をご参照下さい。)

### ▶ 概要

日程：2007年11月30日(金)、会場：東京大学小柴ホール

### ▶ プログラム

- 13:00 - 13:10 開会挨拶 上田完次(東大・人工物工学研究センター長)
- 13:10 - 13:40 「人工物の価値と人、社会」 武田英明(東大・人工物工学研究センター・教授)
- 13:40 - 14:20 「人はどれだけの物にかこまれて生きているのか?: ブッシュマンからユビキタスまで」 佐藤浩司(国立民族学博物館・文化資源研究センター・准教授)
- 14:20 - 15:00 「人工物の政治的効果」 佐藤仁(東大・新領域創成科学研究科・准教授)
- 15:20 - 15:50 「価値研究の展開とサービス」 竹中毅(東大・人工物工学研究センター・准教授)
- 15:50 - 16:30 「ネットワークと価値」 藤井信忠(神戸大・工学研究科・准教授)
- 16:30 - 16:50 総合討論
- 16:50 - 17:00 閉会挨拶 武田英明(東大・人工物工学研究センター・教授)

## 第4回人工物工学研究センター研究発表会

第4回人工物工学研究センター研究発表会が2007年10月10日(水)に柏キャンパス総合研究棟にて開催されました。本発表会は人工物工学研究センターの各メンバーが互いの研究成果を理解・議論する場として設けられ、2004年から毎年行われております。各発表者はそれぞれの研究成果を分野の異なる研究者にも分かりやすく伝えようと尽力しており、研究分野を超えた活発な議論がなされました。

### ▶ 概要

日程：2007年10月10日(水)、会場：東京大学柏キャンパス総合研究棟

### ▶ プログラム(各20分)

- 開会の辞 上田完次(人工物工学研究センター長)
- 「複雑ネットワークを利用した群衆行動の分析」 山出真也(白山研)
- 「信頼の構築と情報流通を視野に入れたスケジュール情報ポータル設計」 亀田亮宙(武田研)
- 「階層モデリングに基づくレプリカ交換法によるタンパク質再安定構造探索の効率化」 辰井大祐(奥田研)
- 「パッシブ型RFIDタグを用いた構造物診断用力センサデバイスの開発」 鈴木伸吾(浅間研)
- 「認知的特性に基づく旋律の創発的設計に関する研究」 布袋田由理子(上田研)
- 「人工物工学における価値創成研究の進め方について(第2報)」 福原知宏(寄付研究部門)
- 「フォークソノミーによる情報推薦システムを持つ研究支援グループウェアの開発」 森野耕平(奥田研)
- 「UHF帯RFIDのタグ読取不可情報を用いた画像中動物体の同定」 福田一郎(浅間研)

### ▶ 学生優秀発表賞

布袋田由理子 (上田研)





## 5. ご案内

### 第16回人工物工学コロキウム ―社会における価値共創―

#### ▶ 概要

日程：2008年3月5日(水) 13:00 - 17:30

会場：東京大学柏キャンパス総合研究棟5階会議室

主催：東京大学人工物工学研究センター

#### ▶ 開催趣旨

現在、ネットワーク化やグローバル化の影響によって、社会における人工物の価値を理解し、それらを適切に設計することが難しくなっています。機能性に優れた人工物の設計が価値を創出するとは限らないからです。さらに、持続可能な社会と個人の豊かな生活を両立するためには、社会の中で製品やサービスの価値がどのように生み出され、維持されていくかという問題に目を向け、価値をマネジメントするための方法論が求められています。共創工学では、このような問題に対し、意思決定主体の相互作用を通じた共創的問題解決を探究しています。本コロキウムでは関連分野の専門家を招き、社会における価値共創に向けた取り組みの紹介と討論を行います。

#### ▶ プログラム

13:00 - 13:10 開会挨拶 上田完次(東大・人工物工学研究センター長)

13:10 - 13:40 「価値を共創する工学 上田完次(東大・人工物工学研究センター・教授)

13:40 - 14:20 「共創とコミュニティ(仮題)」 三宅美博(東工大・総合理工学研究科・准教授)

14:20 - 15:00 「スキルの科学と生産知識の動態保存」 小野里雅彦(北大・情報科学研究科・教授)

15:10 - 15:15 休憩

15:15 - 15:55 「デファクト・スタンダードと価値」 小笠原敦(産総研・イノベーション推進室総括主幹)

15:55 - 16:35 「インターネット時代における共創―パワーアップジャパンの試み―(仮題)」  
土屋泰一(日経BP社・企画サイト編集室)

16:35 - 17:05 「経済的意思決定と価値共創」 西野成昭(東大・人工物工学研究センター・助教)

17:05 - 17:30 総合討論 コディネータ：竹中毅(東大・人工物工学研究センター・准教授)

17:30 閉会

#### ▶ 参加費

参加費は無料です。

#### ▶ 参加申し込み

参加ご希望の方は、下記URLから必要事項をご入力の上、お申し込み下さい。(最終締め切り日：2月29日正午)。なお、定員になり次第、締め切らせて頂くことをご了承下さい。

URL: <http://www.race.u-tokyo.ac.jp/colloquium/>

#### ▶ 問い合わせ先

colloquium16@race.u-tokyo.ac.jp





## 6. 2007年度学内連携研究の紹介

人工物工学研究センター価値創成イニシアティブ(住友商事)寄付研究部門では、「価値」の問題が工学に限らず、経済学、社会学など他分野との境界領域の問題であることを考慮し、東京大学内の他の研究機関と連携することによって価値研究を推進しています。「学内連携研究プロジェクト」、および学生を対象とした「RA(リサーチ・アシスタント)研究プロジェクト」は、そうした背景から2006年度より発足し、2007年度は下記研究テーマを掲げ定期的な研究会を開催してきました。詳細、研究会スケジュールなどの最新情報は寄付研究部門サイト <http://www.race.u-tokyo.ac.jp/vaci/> をご参照下さい。

### ▶ 2007年度学内連携研究テーマ

「製品・サービス設計のための提供価値の構造化」 新井民夫(工学系・教授)

「インターネット上のコミュニティシステムの構築とリアル社会とのインタラクションの研究」

池田謙一(人文社会系・教授)

「情報コモンズによる新パラダイム創成」 岩田修一(新領域・教授)

「コンテンツビジネスにおける企業能力形成に関する研究」 七丈直弘(情報学環・准教授)

「不確実性下におけるエネルギー・環境政策の評価と価値創成」 高嶋隆太(工学系・助教)

「地方自治体の数理的な行政サービス評価」 武市祥司(工学系・准教授)

「多階層ネットワークの可視化による社会制度の時系列データ解析」 橋本康弘(工学系・講師)

「社会共創とイノベーション」 馬場靖憲(先端研・教授)

「プラスチックリサイクルにおける品質情報連鎖に基づいた価値の評価」 平尾雅彦(工学系・教授)

「情報通信技術(ICT)の価値指標創出」 松野泰也(工学系・准教授)

「オンデマンドバスの個別サービスへの展開とそのサービス評価手法の研究」

大和裕幸(新領域・教授)

「サステナビリティ・イノベーション創成へ向けたグローバル情報コモンズのデザイン」

鎗目雅(新領域・准教授)

### ▶ 2007年度RA研究テーマ

「主観的データによる価値創成ー顔イラストへの表情付けシステムを通してー」

古泉大輔(工学系研究科)

「関係資源からの価値創造メカニズムの考察」 桑島由芙(経済学研究科)



定期研究会の様子



## 7. 住友商事(株) 櫻門賞受賞の報告

人工物工学研究センター価値創成イニシアティブ(住友商事)寄附研究部門の設置・運営にご支援頂いている住友商事株式会社が、このほど東京大学から東京大学櫻門賞を授与されました。授賞理由は以下の通りです。

「同社は、平成17年度以降、人工物工学研究センターにおける『価値創成イニシアティブ(住友商事)寄附研究部門』の設置・運営のために支援され、その結果、同研究部門は、多数の文理融合の学内連携研究推進のハブとなり、センターの研究総合力と商社のビジネス総合力の融和による新たな知見の共有に多大の寄与をなしている。これは、本学の活動の発展に大きく貢献するものである。」(学内広報誌(2007年10月15日付)より)

寄附研究部門では住友商事株式会社をはじめ皆様からのご支援に感謝するとともに、今後一層の努力を重ねて参りたいと存じます。



東京大学櫻門賞授賞式

# RACE

発行元：  
〒277-8568 千葉県柏市柏の葉5-1-5総合研究棟5階  
東京大学人工物工学研究センター  
TEL: 04-7136-4240  
FAX: 04-7136-4242  
<http://www.race.u-tokyo.ac.jp>



柏キャンパス総合研究棟